

子どもたちの健やかな成長を見守ります

東海村立けやきの杜保育所が開所しました



村では、待機児童の早期解消と将来において必要な保育量を確保するための緊急対策として、役場の敷地内に新たな公立保育所の整備を進め、5月から利用を開始しました。今後は、待機児童の受け皿となるだけでなく、経験の中から「やりたいこと・好きなことを、増やす・広げる保育」に取り組んでいきます。

【問い合わせ】子育て支援課計画推進・施設担当(☎282-1711 内線1183)、けやきの杜保育所(☎212-7083)

施設の概要

運営形態▼東海村(公設公営)

設置方法▼リース方式

施設構造▼軽量鉄骨造平屋建て

設置場所▼東海村役場庁舎西側敷地
(東海3-7-2)

延床面積▼約880平方メートル

定員▼93人(▽0～2歳児…各12人▽3～5歳児…各19人)

駐車台数▼37台

「けやきの杜」の由来

新保育所は、役場庁舎建設時からある「欒(けやき)の木」を園庭に残し、それを取り囲むように園舎を配置しています。これまで公立の保育所や幼稚園の名称には、舟石川や石神など「大字」の地名を多く使用してきましたが、新保育所は役場庁舎に隣接している立地状況を踏まえ、柔らかい印象と親しみの持てる名称を考えました。

子どもたちの健やかな成長を見守るシンボルツリー「欒(けやき)」に、“清らかで尊い存在”といった意味を持つ「杜」の字を合わせ、「けやきの杜保育所」と決定しました。

「保育」という おしごと

— 保育者からのメッセージ —



「安心できる場所(存在)」であること、それが私の保育の大きな目標です。

これからも、うれしさ、寂しさ、悔しさ、感動、たくさんの場面を子どもたちと経験しながら、新しい挑戦にあふれる子どもたちに寄り添い「安心できる場所」であるよう、努めていきたいと思えます。少しでもこの仕事に興味を持った皆さんと、一緒に働ける日が来ることを楽しみにしています。

小林 怜奈 保育教諭

「れな先生がいてくれて、うれしかったよ」。これは昨年卒園した子どもからももらった言葉です。自分なりの言葉で、一生懸命に思いを伝えてくれたと思うと、心がじんわりと温かくなりました。真つすぐで嘘のない子どもたちの言葉は、何よりも力になります。

私が保育士を目指すようになったのは小学生の時でした。周りに年下の子が多い環境で育ち、一緒に遊んだり、面倒を見たりする中で、自然と子どもと関わる仕事に興味を持つようになりました。

今こうして憧れだった保育士になり仕事をやる中で、一つ目標に決めていることがあります。それは、子どもが「安心できる場所(存在)」だと思える関係をつくることです。運動会で、初めて跳び箱に挑戦することになった時、練習に参加しながらない子がいました。「失敗しても大丈夫。最後まで応援しているよ」と安心できるように何度も繰り返して掛けました。一歩目がなかなか出ない日々が続きましたが、「できなくても、できるようにするために頑張ろう」と失敗を恐れずに挑戦する姿が見られるようになりました。「先生はいつも応援してくれている」と安心し、自信が持てたのかなと思えた瞬間でした。そして運動会当日、跳び箱を堂々と跳ぶ姿を見て、心を動かされるような感動を味わいました。